

# 医療最前線

オーラルペイン・リエゾン外来



教授 鮎瀬 卓郎



助教 岡安 一郎

## 口・顎・顔の痛み(口腔顎顔面痛)の 専門外来

### ～口腔顎顔面痛の評価・診断・管理～

歯科で扱う痛みには、虫歯や歯周病など、歯に原因を有する痛みだけでなく、「口腔顎顔面痛」とよばれる、口や顎、顔面に生じる痛みがあります。

口腔顎顔面痛には、三叉神経痛をはじめ、抜歯や歯の神経の治療後に起こったり、口腔外科的手術後に長く続く痛み(神経障害性疼痛)や、顎の筋肉や関節の痛み(顎関節症)、舌の痛み(舌痛症)、原因不明な歯の痛み(非定型歯痛)など、原因がよくわからない痛みが多数存在します。原因が不明で、はっきりとした評価方法も確立されていないが故に、その診断には専門的な知識が要求されます。

口腔顎顔面痛に有効な薬の中には、抗炎症薬の他、抗けいれん薬や抗うつ薬、麻薬などがあり、処方の際して

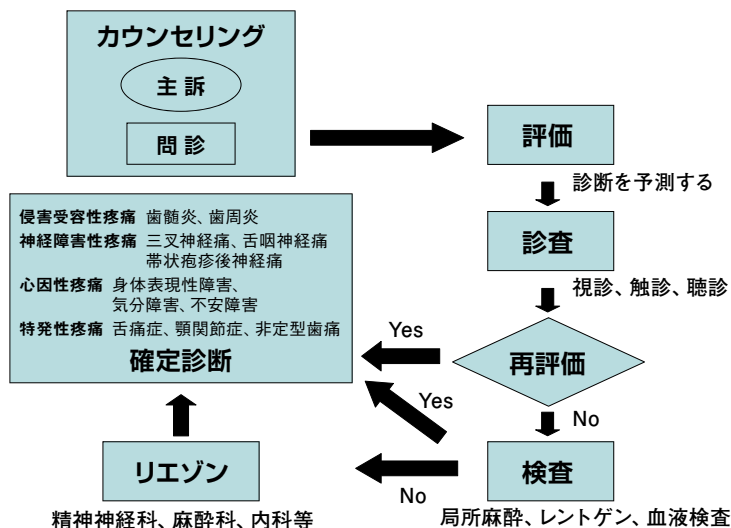
は、医科への依頼が必要な場合があります。また、身体的な異常が認められないにも関わらず、痛みを訴えられる患者さんの中には、心理的・社会的要因が関与する症例(身体表現性障害)も数多く存在し、その症状として、口腔顎顔面領域に“慢性の痛み”として現れる場合があります。

このような現状を踏まえて、当科では、歯科のみならず、精神神経科をはじめとした医科と連携(リエゾン)して、治療を進めています。

カウンセリングにより、適切な評価手順を踏まえた上で診断を行い、治療方針を決定し、歯科と医科とのリエゾンの下、薬物療法、認知行動療法、理学療法、東洋医学療法など、様々な手法を用いて、口腔顎顔面痛の管理に努めています。



歯科医師と精神科医によるリエゾン診療



当科における評価から診断までの流れ